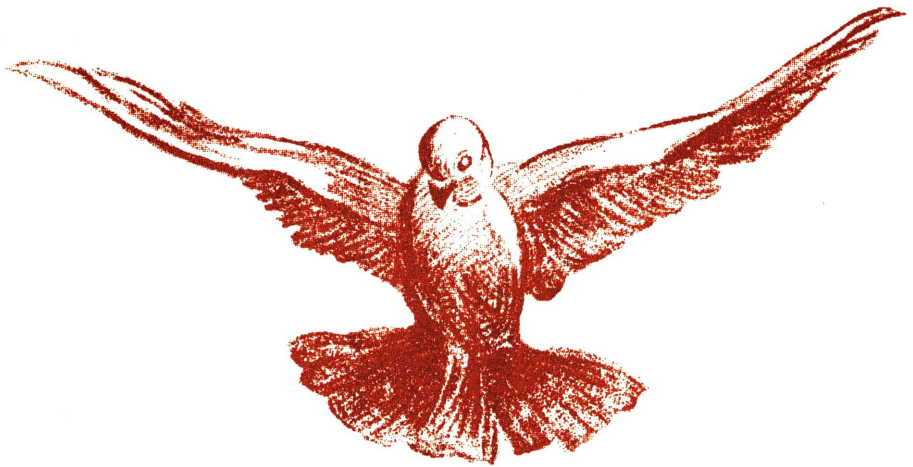


幼 兒 の 教 育

第 一 号

第 四 十 六 卷



日 本 幼 稚 園 協 會

全國の幼兒達と、その家庭と先生方の上に、こそしがよき新しい年であることを、心から祈る。世はいかに厳しかろうとも、われらの希望は幼兒達と俱にある。愛の足らないことを省み、盡して到らないことを戒めつゝも、幼兒の不斷の成長の侶として、常に、怠ることなく疲れを知らざらんことを。

昭和二十二年一月

日本幼稚園協會

第 一 號 幼 兒 教 育 第 四 十 六 卷

目 次

新 し い 心……………	倉 橋 惣 三……………	(2)
幼 兒 の 科 學 教 育……………	堀 七 藏……………	(5)
こ れ か ら の 童 話 材 の 取 扱 い……………	内 山 憲 尙……………	(8)
玩 具 の 今 後……………	山 田 德 兵 衛……………	(13)
幼 兒 と 冬……………	内 藤 森 七 郎……………	(16)
＝ 保 育 の 實 際 ＝		
シ ー ソ ー……………	及 川 ふ み……………	(19)
子 ど も と か け つ こ……………	岡 崎 脩 子……………	(20)
＝ 再 建 の 保 育 界 ＝		
千 葉 縣 保 育 界 だ よ り……………	土 屋 眞 砂 子……………	(23)
母 と 語 る (I)……………	倉 橋 惣 三……………	(24)
講 座		
個 性 の 心 理 と 指 導……………	牛 島 義 友……………	(25)
附 録		
現 代 か な づ か い……………		(29)
會 社……………		()

新しき心

— 新年語 —

倉橋惣三

新日本の建設といひ、そのための、新教育原理といひ、新教育方法といひ、すべては新しい心によつて發し、新しい心によつてのみ行われる。新しい酒を古い革袋に盛つてはならぬとかいうことがあるが、新しい革袋だからとて古い酒を盛つたのでは、決して眞に新しくはならない。すべて、新しいことは中味のことである。心のことである。新しい生命を缺く心に、新教育原理も新教育方法もない。大切なものは、日々に新しく、常に新しい心である。

原理には古く傳わる永遠の原理も少なくない。必ずしも、新説をのみ責いとしなないかも知れない。しかも、それは古きが故に權威があるのではない。永遠性の故に價值があるのである。古くても古びない新しさにこそ權威があるのである。永遠に不變な新しさにこそ價值があるのである。方法には習と熟とを必要とするところが多い。しかも、それはたゞ手なれと熟練に一任せる巧者上手のよさのみではない。度びを重ね年を積んでこそ到達した新しさ、くるいのない不動の

新しさにこそ、なまじ新しがりの未熟者に得られない眞の新しさが出るのである。要は、そのうちに一貫する新しさである。ましてや、新説新法の名と形のみあつても、常に新しい心に生命づけられているのでなかつたら、なんの眞も妙もあり得ない。

最も常に新しいものは自然である。千古同じ静かさに流れるふん泉の水の新たなのはいうまでもない。湧きつゞけほとばしりつゞけて、常に新しいのである。常盤木の色のいつも新たなのみでなく、枯れ朽ちないかぎり、同じ形のまゝに新しさを變えない。冬に追われて落葉しても、その下には更に新しい芽が待つてゐる。落葉は新緑を約束し、新緑を用意してゐるとさえいえる。春毎に花の色と香りの新たななるは、眞に年々歳々變らずである。それもたゞに同じ花が開くというのではない。同じ新しさに、年々歳々咲き香るのである。月の新しさは新月にかぎらない。満つるも缺くるも、夜

毎に新しい月の形であり、とわに古りない月の光りである。その新しい光りに、古い面影を結びつけて、今夜の新しい月を感じないのは、人間感傷のとらわれに過ぎない。しかも、その古い面影さへ、月にさそわれて新たなのである。暁毎にさし昇る日の光りの新たなのはもとより、沈みゆく落日の光りも亦、なんぞ目さめるばかり夕毎に新たな。今日を昨日に同じくし、明日を今日に變らじとするのは、新をおそるゝ弱き心にほかならない。自ら燃ゆる天日は、その日その日の新しい光りに輝いているのである。日に新たにしてみても、日に舊くしてまた舊きに止まるのみである。

その常に新たな自然を、舊く詠ずる詩人もあり、舊く描く畫家もある。時に新語調をならべ、僅に新手法を弄しても、その詩に流れる泉水はどよみ、その畫に塗られる日光は鈍る。

藝術よりも古り易いものは教育であり、藝術家よりも古り易いものは教育家である。眞を觀念の上にもとめる新教育も、巧を工夫の上にとらす新教育法も、その觀念を工夫の所に止まつて、教育者の舊き心に用いられては、やつぱり同じ舊い教育に終る。評調のみによつて必ずしも新しい詩が生れず、手法のみによつて必ずしも新しい畫が成らないのと同じである。或はそれ以上かも知れない。そこに出来るものは、

似而非新教育に墮するでもあろう。いくら水壓が強くて、貯水タンクから押し出される水が古く、いくら燭光が強くて、人造ランプにともされる光が消え易いのに似てもいい。水源が大地にないからである。光源が天日にないからである。しからば、教育を常に眞に新たなならしめるための、教育者の心にとつての水源光源は何であらうか。問うまでもなく、それ自身常に新たな兒童の心にある。

兒童の心の常に新たなあらわれは、その生き／＼としていゝる情感においても、その潑刺たる行動においても、その眞率なる言語においても、その自在の想像においても、こゝにあらためて敘述するの要はあるまい。藝術家の前に豊富な自然が在る如く、教育者の前に豊富に在るのである。たゞ、それを受取るすなおさと、それに感動する生命とさえ、われらにあればいい。

が、しばらく、兒童の心が何が故に斯くも常に新しいかを考えてみれば、それには、いろ／＼の解釋がつくでもあろう。或はいう。つくろわざれない本然の子なるが故にと。それも確にそうである。或はいう。いつわらざる眞率の發露の故にと。それも確にそうである。おとなの心の舊くなるのが、つくろいといつわりとよることの多いのに對して、それは確にそうである。しかし、それだけでは、心の舊くせられない説明であつても、又、心の新しさを保つことの理由であつても、新しい心の常に新しく發動し湧出することを解明

してはいない。更に詠嘆して、その新生の生命の故にといふ。まことにその通りであらうし、警異の感を以て、誰れもそういふたい。その偉大の生命があゝの小さきものにあることは、まことに驚くべく、限りなく貴いことである。それは、感激するものにとつては、大地にたくえる大生命、天日に藏せられる大生命に似たものさへ感じられる。しかし、その生命は動いた時のみ生活として新しい。教育が兒童に觀る新しさは、新しいものとしてだけでなく、常に新しい生活者としてである。そこで、その大生命が、兒童をして常に新しい生活者たらしめるのは何によるか。もつとはつきりいへば、何のすがたによるか。つまり、生命が、たゞ存在するだけでなく、どんなすがたで動くところに、生活を常住の新しさにあらしめるかということになる。——こう考へ來つて、答は言葉として極めて月並であるが、無限の意義をもつ「生長」である。不斷の發達の動きである。それによる力強い生活々動である。

わたしは茲で、理を語らうとしていない。兒童の生活の新しさを感じ、その新しい生活・動に常に新しく反應し、假りにも、その新しさを妨げ古びさせることのないように、われらの心を常に新しからしめたいことを希求しているのである。こんな新しい心の兒童の前にあり常に取り圍まれていながら、教育者ほど、兒童の新しい心にまひし、鈍化し、時には、その餘りに新しい心を、もて餘してさえいるものはない

かも知れない。しかもそれは、凡庸な藝術家と同じなさけなさであり、われら多くの恥ずかしい反省であり、黙して自ら悲しむばかりはなすが、共に語りたいのは、その、自分の古びた心を、新教育原理、新教育方法の「新しさ」で覆い去つてはならぬことである。教育の新は、理論と方法の新だけで得られないことを、あの兒童の新しい心に直接に觸れながら自戒したのである。新教育原理と新教育法も、理論方法の上だけでなく、つまりは、われら教育者に、新しい心をよみがえらせるものでなければなるまいが、新しい心をもつものゝみが、新しい原理と方法とを、眞に新しからしめるともいへ得る。

すべて、眞に新しいことは、心の新しさにのみある。教育において殊に。

○親しい會話………

「新年おめ………」

「おめ………」

「おめずらしのね」

「………どうをすらしの」

「………」

「そうね。だが、何がめずらしの」

「だつて、大層早くいらしたから」

「ことしから、早く來ることにしたの」

「感心ね」

「子どもよりおくれたりして済まなかつたわ」

幼児の科學教育

東京女子高等師範學校教授

堀 七 藏

一
幼児の身のまわりにあるいろいろの事物を、幼児が遊んでいる間に、五官を働かして見ることは科學教育の本體である。

例えば、犬猫でも、また牛や馬でも、また兎やにわとり、すゞめやからす、つばめやはとなどの鳥類、またかえるやかめ、金魚やふなの如き魚類更にちようやせみやとんぼなどいろいろの虫類、是等の動物は幼児が興味を以て見るものである。是等のいろいろの動物は活動するから、所謂、活動期にある幼児は大へん興味を以て遊び相手としたり話相手にさえするものである。是等について、幼児に出来るだけ世話をさせることが出来る結構であるが、これが出来るまいまでも、いじめるとか、石をぶつけるとか、棒で打つとかいうような悪戯をさせてはならぬ。そして動物の形態なり運動なり、また習性なりについてよく見させることが緊要である。眼がど

んなになつてゐるか。耳がどんなになつてゐるか、鼻がどんなになつてゐるか、口はどんなになつてゐるか、足はなん本あるか、どんなになつてゐるか、どんな工合に足を動かして歩くか、足のゆびはどんなになつてゐるか、爪はどんなになつてゐるか、またはねはどんなになつてゐるか、どんななき方をするか、どんなにしてなくか、なにを喜んでたべるか、齒はどんなになつてゐるか、水をのむときどんなにするか、ねむるときどんなにするか、等、簡単な問を出して幼児によく觀察させることが最も適切である。大人が觀察した結果を話したり、動物學上のいろいろの知識を授けるようなことは成るべくさげねばならぬ。要は幼児が五官を働かしてそれ等の動物を觀察してその具體的な明白な觀念を得ることが本體である。尤もいろいろの動物についてのお話をしたり動物の繪を見せたりそれについてお話をしたりすることは幼児の保育上よいことではあるが、それは幼児の科學教育として重要な事ではない。

いろ／＼な草花や野菜や果物など、幼児の身のまわりにある植物も、幼児をして十分観察させねばならぬ。是等の植物は動物と異なり、靜的で運動をせず變化に乏しいから幼児の注目をひくことは動物に及ばないけれども、いろ／＼の色彩に富み、いろ／＼な形態をなし、また四季自ら變化するもので、特別な危害を幼児に及ぼすこともないので幼児もひとしく愛好し、遊びの材料となすことが出来る。それで幼児が遊びながら、よく實物について直觀することが出来る。それで幼児がそれ等の明白な觀念を確實に修得出来る。勿論いろ／＼の植物學的な知識を授けるのではない。また實物をはなれた觀念的なお話をなすこともさけねばならぬ。花の色はどんなか、花の形はどんなか、葉の形はどんなか、葉の表裏がどんなに相違するか、葉の面がどんなか、葉のふちがどんなになつてゐるか等、實物についてよくくらべて見ることを本體とせねばならぬ。従つて一とう大きな葉、一とう小さい葉、まんまる葉、一とう細い葉、長い葉、一とうすべ／＼した葉、ぎざ／＼の葉、赤い花、黄い花、紫の花というように問を出して幼児をしてそれ等を見付け出させてくらべる遊びをさせるも面白い作業である。また朝顔なり菜類なりまた球根類を栽培をさせてその世話を行わせることもよい作業である。またいろいろの葉や木の實を拾い集めさせる作業もよいことであり、是等の自然物を使つておもちゃをつくらせることも誠に望まし

いことで幼児の科學教育の重要事項である。植物は動物と異なり、幼児が危害を受けることがない。けれども時には有毒なものを手にしたたり、口に入れる虞があるから十分注意をせねばならぬ。従つて有毒植物を幼児がいじらないように注意すると共に、何でも草花を無暗と干切つたり口にしたたりすることのないように躑けねばならぬ。

三

水や砂、小石や土などは幼児の遊びの材料となるもので、科學教育のよい材料である。また兒童の身のまわりにあるいろ／＼の器具や建築材料、日用品や學用品なども幼児によく觀察させたり正しく使用させたりせねばならぬ。雨、風、雪、霜などの自然現象についても出来るだけよく觀察せしめねばならぬ。いろ／＼の理窟を説明することは成るべくさけて、現象そのもの、自然物そのもの、状態や性状等につき素直な直觀を行わせることを本體とせねばならぬ。

四

幼児は事物の關係を考察する力がまだ發達しないから、無理に關係を考察させようとすることは禁物である。しかし先ず空間關係について具體的に觀察させることから漸次數量の觀念を養うようにせねばならぬ。大小廣狹長短、輕重等の觀念を具體的に把握させることも大切であるし、數觀念を明白に直觀させることも頗る肝要である。従つていろ／＼の事物

を觀察させるとき、必ず數えること、大小長短輕重等をくらべることを行わせねばならぬ。即ち事物の性状等を觀察させると共に、數量に關する取扱ひ處理を行わせねばならぬ。いろ／＼のものを大いさの順に並べるとか、長短の順にならべるとか、また重さの順に並べるとか、三、四、五、六、七、八、九、一〇と花でも葉でもまた果實などの實物をいろ／＼に並べるような遊や作業を行わせて、自ら數量の觀念を養うように仕向けねばならぬ。茲に特に注意すべきことは單に數詞を唱えるとか、器械的に數計算をなすことを強いるが如きは禁物である。

滿五六歳までの幼兒では時間關係をやかましく考察させようとしても無理である。況んや因果關係の考察は尙更である。従つて「どうしてか」「なぜか」などについて考察させることを幼兒の科學教育に於て重視してはならぬ。「どうしてか」と幼兒に尋ねても、幼兒は「どうしても」と單に答える位が關の山である。それで幼兒の科學教育に於ては、「どんなになつてゐるか」「どんな色か」「どんな形か」また「いくつあるか」等、幼兒が實際に事物を視察して答え得るような問を出すことに限定せねばならぬ。

五

要するに幼兒の科學教育は幼兒自身がよく觀る、やつてみるとゆう程度で、幼兒がその五官を十分働かして事物の明白な觀念を收得することを主とせねばならぬ。そして外界の事

物の明白な觀念、確實な知識を修得せしめねばならぬ。幼兒に考えてみることを多く要求することは無理であり徒勞である。殊に大人がもつてゐる觀念や知識を傳授したり大人が考へた結果を理解させようとして説明することは眞に幼兒に施す科學教育の眞髓ではない。幼兒の科學教育に於てはどこまでも幼兒が身のまわりになる事物をよく觀察することを本體とせねばならぬ。これによつて事物の明白な觀念、確實な知識を得ると共に、事物を見る態度、事物を扱う方法を體得せると共に、幼兒の五官を成るべく發達させるように指導せねばならぬ。幼兒の科學教育に於て死んだ科學的知識を觀念的に傳授して小さな物識りとなすようなことは禁物である。また本當に理解せずして小理窟を鵝呑みにしたごさかしい、ませた者にするを極力さげねばならぬ。

○親しい會話……2

- 「あら、けきはわたしじゃけたわ」
「いゝえ、まだおそかないのよ」
「お玄關がきれいになつてゝ、いゝ氣もち」
「水をまこうかと思つたけれど、凍ると子どもさん達がすべるでしよう」
「けきは特別寒いのね」
「子どもさん達早く來るといゝ。きのうのようにいつしよにかけ足しましよう」
「そうね。わたし達でしましようよ」
「ハ、ハ、ハ。早く外登ぬいでいらつしやい」

これからの童話材の取り扱ひ

東京保育學校 内山 憲 尙

一 新しい歴史

約一ヶ年間授業の禁止を受けつゝいた國史が再開を許可され
ると共に「新しい國史教科書」が出来上つた。今度の教科書
中一番變つたことは神話的なものを全部削除せられて、神武
天皇以前は石器時代として、考古學的な取り扱ひをされ、國
語に於ける神話的教材も取り入れられなくなつて、從來、國
語や歴史で聞かされていた神話は學校に於ける正規の授業か
らは除かれたのである。

歴史を神話へ結びつかせて、神話そのものを歴史的に取り
扱つて來た從來のやり方は、歴史學的には間違つていたこと
は事實であるが、「神話を兒童に與えてはならないものであ
る」と云う様な考えを持つ教育者があつたとするなれば、そ
れは大なる間違ひであると云うことを知らなければならな
い。

各民族にはそれぞれ、民族の説話があり、神話があるので
あつて、「神話は民族の夢」であると云われている。

教科書に於て歴史として取り扱われなくなつた神話は民
族の文藝として、古代の藝術として、與えなければならな
い。

ことに幼兒に對しては、「談話」の一つの分野として、童話
の一種として語る時間を出來るだけ澤山にとることが必要で
ある。

「今日の天子様の御祖先」としての神々ではなく、「日本の
昔においてになつた神様」として取り扱わなければならない
ことは勿論であり、歴史と離れた一個の物語りとしての「天
の岩屋」「八岐のおろち」「天孫」「少彦名のみこと」「二つ
の玉」「國引き」であらねばならぬ。

二 日本童話の再検討

神話の正しい取り扱ひと共に、日本童話即ち傳承童話の再
検討が必要である。但し再検討と云う意味は日本童話の中で
桃太郎が軍國主義の童話であり、さるとかにやかちかち山
が仇討ち童話であるから話してはいけないと云う様な消極的

な考え方ではない、今まで傳承童話でさえも戦時中、ジャーナリズムの手によつて歪められていたために一般に間違われて解釋されていたのである。その間違ひを正して、昔の正しい形に返すための再検討である、即ち、興えんがための積極的再検討である。

桃太郎の話が戦争中は可成り悪用されて、侵略的な意味に用いられて来ていた。例えはある本屋から出した單行本には桃太郎が、南洋へ遠征して、寶物の代りに、麻やゴム等の産物を分捕りして來たり、帝國劇場で演じた歌劇團の桃太郎では、大猿雉が鐵砲や機關銃を持つ一團場し、桃太郎が「日本一」の旗の代りに「撃ちてしまん」の旗を背にさして登場したりしたのである、即ち桃太郎は全く思いがけない、あさましい身代りに私用された譯であつた。

元來桃太郎の話は、正義と進取と勇氣と協同と寛大を表象した童話であつて、軍國的な侵略的な意味は持つていないのである。桃から生れたと云う、桃は古から邪氣を拂うものとして取り扱われ、桃太郎が壯年の勇士としてではなく、少年のまゝで出發し、鬼が島へ征くに際しても何等の目的も持たず單に邪惡なものを伐つと云う正義觀に出發し、その家來の大猿雉は三匹とも平和的動物である。もしも桃太郎が軍國的な侵略的な意味を多分に持つならば猛獸を引卒して行つたにちがいない。

印度の桃太郎と云われているラマヤナは鬼が島（セイロン島）遠征するに似て熊猴の一族と驚の案内によつて出

かけて姫を助け寶物を分捕つて歸つており、イタリヤの同型の童話、ケエザリノも龍の島（シシリイ島）へ出かけるに際し、熊と獅子との猛獸を家來として、姫を助けに行つてゐるのである。

桃太郎はどこを押して軍國的であると云うことが出来るか、保母さんたちの中には、「桃太郎の話は遠慮したら」と云う人があるが、正しい日本昔噺の形で話さえずれば決して遠慮をすることは要らない、どんどん話して貰いたいと考える。かちかち山、おるとかにに於ては成立當時は、その時代の道徳が仇討ちを美德とした時代であるから仇討ち的色彩があるが現行のもの——國譯讀本に扱われている形式のもの——は徳川末期の「雛遷宇計木」又は「童話長篇」からとつたもので、もう仇討ちの色彩はその影を見ることが出来ないものになつてゐる。そのまま興えて決して差支えはないのである。

三 外國の話を澤山に

戦時中は敵國の英米の音楽は禁止せられ、英語をさえ使用を止められたので、従つて、外國の話はなる可く遠慮する方がいと考えられたのであつたが、これは大變なる間違ひで兒童文學の上には戦時もなければ國境もない、一人間を作る上によい話であるなれば洋の東西を問わずこれを幼児に興えてよいのである。

敗戰國の話だからと云つて獨逸の童話を遠慮することはな

い、グリムの話結構、大いに話す可きである。

今まで外國の話と云うとイソップとグリムのみに限られていた様であるが、今後は出来るだけ廣く、各國のいゝ話を——ことに新しい話でよいものがあるからそれを幼児の話に取りあげて大いに廣く話をして貰いたい。

アンデルゼンのものは難しいと云う聲を聞くが、幼児たちが話を聴く耳さえ出来ればアンデルゼンのものでも充分に聞くことが出来るのである。

従來、童話は月一回か二回位しか與えられていないので、話を聞く態度や、聴く耳が作られていない、今後の保育に於ては、話を出来るだけ澤山に聞かせて、靜かに話を味わい充分に話を聴く耳を養成してやる必要があるである。

唱歌や遊戯が毎日與えられていると同様、童話も幼児の生活として、毎日與えられて決して悪いことはない、否、むしろ、毎日與えて結構である。

四 童話の利用

童話の使命は、生活の擴充、情操の涵養、想像力の善化、同情心の養成であつて、話の内容から教訓を與えようとしたり、話によつて矯正をなさんとする様な、話を道具としての利用は童話の目的を破壊するものである。

戦時中桃太郎の話が戦争目的遂行のために利用されたことは間違ひであると云つたが、更に私たちは大正末から昭和初年に於て、童話がある託児所に於て、或は共產黨の人たち

によつて利用され、さるとかにの話が猿が資本家で、蟹（無産者）の丹精して作つた柿の實を擄取して、蟹を殺した、蟹たちは仲間の無産者協同によつて、仇を討つたと云うが如き又は金太郎が山の中で無産者たちを家來にして、彼等を使役し、勞働力を奪つたと云うが如き話がなされたと云うことは話の悪用であり、歪められたことになるのである。童話にそんなイデオロギーを盛り込んでほならない、どこまでも正しく、童心の中から芽生えた白玉の如き、美しく明るいものを與えることを忘れてはならない。

五

「子供が亂暴になつた！」

「子供が粗雑になつた……落ちつきがなくなつた！」

と云う言葉は全國の幼稚園、國民學校の先生たちから聞く聲である。實際戦前に比べて終戦後の幼児たちは見違える程ひどく變つて仕舞つた。

無理もないことであるかもしれない——戦争中の數年間は空襲や防空演習や、待避によつて毎日の生活は、死に直面させられる恐怖を與えられ、乏しい物質的生活に我慢させられ「欲しがりません勝つまでは」と歌にまで歌わされて限られた生活を餘儀なくさせられて來たのである。

美しい夢

たのしい子供らしさ

のんびりとした生活

は彼等の生活から遠く離されて仕舞つたのであつた。

終戦から今日までは物質缺乏から生じた成人のひどい生活をそのまゝ見せられ聞かされ影響せられて、幼児の生活は更に落ちつきと潤いとをなくして仕舞つた。

これからの幼児の有様がこれでよいのであろうか。何時までこんな状態のまゝに放任して置いてよいのであろうか。一日も早く、子供らしさを取りもどして、潤いとよるこびとたのしい生活にしてやらなければならぬ。

「これからの子供にどんな童話を與えたらよろしいでせう」と聞かされることが多いが、

「戦前のものなら、どんなものでもよろしく」と答えて間違ひはない様である。

童話によつてものを教えようとするところに間違ひがあるのである。童話を利用する可きものではない。もしも戦争中童話が、軍國主義的精神の育成に役立つていたとしたらそれは決して正しい童話ではなかつた筈である、本質的な童話からは縁遠いものであつたと言ふことが出来る。

桃太郎の話が、ある單行本には東洋へ征伐に行く様に書きかえられたり、帝劇である歌劇團の演じたのなど犬猿雉が鐵砲を持つて出場し桃太郎の「日本一」の旗の代りに「撃ちてしまん」の旗を持つて登場させた様なのは全く童話の冒瀆であると云ふことが出来る。こんなことから桃太郎の話が軍國主義を強調したものであると考えられる様になつたのであろうが、桃太郎は正義と勇氣を中心とした話であつて決して

軍國主義鼓吹の童話ではない。

軍國主義のために利用されて、侵略主義者と見られて桃太郎さんもさぞかし迷惑していることだろう。

六

これからの保育に必要なものは

平和の愛好

美しい同情心

明朗なる性情

たくましい生活

大きい理想

である。

童話に於ては侵略者や平和の攪亂者は必ず罰せられ亡びられることが定石になつている。童話の世界は常に平和が最後の勝利を得るものである。

童話には詩的正義がある、即ち善人は必ず榮え、悪人は亡びると云う藝術的正義観である。幼児は話中の可哀そうなものの弱者に同情をして、悪人が罪せられ、制裁を受けることをよろこぶのである。

今後の保育に明朗性の必要なことは第一號に倉橋先生もお書きになつていたが、童話はこの明朗な性情を養う上には非常に役立つものである。

童話の中へは、老若男女、強い者、弱い者、正直者、不正直者、賢者、愚者、王様、乞食、あらゆる人物が現われて、

いろいろな事件が起り、それが完全に解決するものである。即ち人生のあらゆる姿を現わしたものであつて、人生の縮圖と云われ、人間生活の横断面とも考えられる。

童話は民族の夢であり、兒童の理想である。彼等の魂を理想の樂園で自由に遊ばせること、のびのびと子供らしさ——童心の世界で——に没らしめることは童話の常道である。

以上捉われざる正しい童話こそは、今後の保育の上でなくてはならない教材であることを忘れてはならない。従來の保育に於ては保育項目偏重が目立つて遊戯がその大半の時間をとつていて、談話は申し譯的に附け加えられていたのである。アメリカ其他各國の保育に於て談話が如何に、その使命の重大さを認められ、時間的に多く取り入れられているかと云うことを見る時、今後の我が國の保育に談話の取持つ部面の多大であり、保姆さんたちが、談話についての正しい認識と、正しい修練が必要であることを痛感する次第である。

○親しい會話……

「どうなまつたの。泣いたりして……」

「だつて」

「また竹ちゃんにいちめられたの」

「いえ。そうじゃないの」

「どうしたのさ」

「あのね。竹ちゃんが、お池の水をとりたいつてきかないで、すべるといけないつて止めてもきかないで、いつものように、わたしの手をふり切つて、かけ出していつたの。そうして池のそばで、すべつて池に落ちそうになつたの。わたし、びつくりして、とめようとして、わたしの方が、池へどびこんで仕舞つたの。淺いから何んでもないけれど、靴もスカートも、ぐしょぐしょになつたの。それで、水のかげらを渡してやるうとしたら、竹ちゃん、いきなり、わたしに抱きついて、それから靴をはきかえてるまでも、少しもそばを離れないじゃないの。お歸りの時まで、ずうつと。かわいじやないの」

「そお」

「お歸りの時もね、いくども、わたしをふりむいて、にこ〜しながらね。かわい〜わ。その後姿を見ながら、わたし、なんだか涙が出ちやつたの。かわい〜わ」

玩具の今後

山田徳兵衛

玩具の戦災

全国の家庭や、幼稚園託児場でも随分たくさん玩具が戦災に遭つたことでしょう。關東大地震のうちに、東京の一部の人たちが集まつて、震災に滅した人形たちのために「人形供養」を行つたことがあります。この度の戦災をこうむつたかわい、玩具たちにも供養をしてやりたいような気がいたします。

玩具の戦災は、そのような需要者の面ばかりではありません。玩具の工場、玩具問屋の倉庫でも非常な數量が災害をこうむりました。なにしろ、東京、大阪、名古屋、静岡など主なる玩具の産地がほとんど戦災を受けたのですから。

しかし、玩具業者の自業に對する自覺と熱意は、厄難を排して復興につとめてまいりましたので、この春ごろからは着々と舊く復しつゝあります。たゞ、何分にもものような工場や、機械や、型の設備が急速には回復しないと、各資材

が不足勝ちなので、製品が種類の偏在し、殊に、機械で作られるものは未だ僅かしか復活いたしません。

戦前の玩具

わが國の玩具は、明治末頃からだん／＼發展をはじめて來ましたが、第一次歐洲大戰となつて、玩具國たるドイツの玩具が世界に消廻らなくなると、貿易品としても玩具の需要がしきりにわが國に向けられてきたので、種類の上からも、技術の上からも又産業的にも大發展をしました。そして、世界屈指の玩具生産國となり昭和十二年には實に四千二百餘萬圓（總輸出額の一、三％）とゆう輸出を見るまでにいたしました。

輸出の數字によつて玩具の内容をトすることはおかしいようですが、實際はそれと併行して玩具についての研究や、向上運動も各所に行われてきて、内容的にも大いに進歩いたしました。

戦時の玩具

この度の戦争がようやく酷になつた頃、新聞紙は、イタリアが玩具製造禁止令を出したことを傳えました。わが國でも玩具生産は非常な壓迫を受け、人的にも、物的にもほとんど何等の保護も與えられない状態になりました。しかし、一部の識者や、業者の努力により最後まで製造は禁止を受けませんでした。昭和十九年十一月には乳幼児（學齡まで）の玩具百三十四種を限つて一種の戦時型規格を定めそれ以外のものはいちいち許可を受けなければ販賣出來ぬ窮屈さになりました。

この結果は玩具生産意欲が一般に冷却しましてほとんど新しい玩具の新築は中絶の状態になりました。

こんなに玩具はいじめられました。當時といえども戦災をこうむつた壕舎の子供たちや、疎開先の子供たちが、たつた一つ買つて貰つた玩具をどんなに喜んで持つたか——むしろこんな時こそ玩具とゆうものゝほんとうの威力を見せたことは、皆様も御見聞なされたことゝ存じます。

戦後の玩具

終戦後、業界は、戦時中の謂わゆる統制型を改善して弾力性を持つ協同組合を都府縣別に作り、その上部に日本玩具商

工業協同組合をおいて全國的統一をとつて、玩具の製品、價格の適正を計り、資材の重點的配給を行い、さらに識者、需要者をも加えた玩具研究室とゆうものを設けて、玩具の文化的検討と指導を行いつゝあります。

最近では、軍需工場の玩具に轉換するものも相當多く、玩具製造の齒車の音はようやく全國的に賑やかになつてまいりました。

玩具と税金

未だに多くの需要者は御存じないと思われませんが、玩具には、昭和十九年一月以來製造價格の六割とゆう高税がかかっています。

このため、とかく玩具が高價になり、云いかえれば價格に比して粗悪になり勝ちなのであります。

これは、戦時の特別措置として或いはやむを得ぬものかも知れませんが、今日となつては玩具の文化的使命からいつて速かに取止むべきものと思ひます。

東京の一部の需要者の請願や、全國組合の陣情が效を奏したか、幸いこの九月から製造價格十圓未満（小賣として十五六圓）のものは免税になりましたが、それ以上のものは今日も依然として高税になつています。玩具とゆうものにこんな高税をかけていることは、何だか外國にきこえたら恥かしいようにさえ思えます。

これは、ぜひ全面的免税になるよう一般需要者の方面からも聲を擧げていたゞきたいと思ひます。そして、よい玩具を、すこしでも安く子供たちに頒つようになりたいものと思ひます。

今後の玩具

新しい文化國家建設といつても俄かに完成するものではありません。どうしても、次代の國民たる子供たちに期待するところ大であることは申すまでもありません。

この意味に於て、政府も玩具の文化的使命をさらに大きく認識してもらいたいと思ひます。

今日、玩具の種類の偏在していること、粗悪の面のあることも諸資材の入手難が大原因です。この點だけでも、政府がもうすこし玩具を重要視してもらえたらと思ひます。

これからは、業者もおちついて「よい玩具」の生産に努力することでしょう。一方、需要者の側でも玩具を買われる場合「本當によい玩具」をもとめるよう一層御注意をされたいのです。従来は、ともすれば「よい玩具」より、「きれいな玩具」「新形の玩具」のみが歓迎され、本當によいものが案外賣れないとゆうようなことが多かつたため、良心的な製造家はむしろ失敗ばかりしている結果になりました。資材の貴い折柄でもあり、出来ることなら、玩具の生産者と、需要者が意志の疏通を計つて、實行の心配などせずに、安心してよ

いものを作るようになったら、理想的と思ひます。需要者と、生産者の好い握手によつて、玩具はよくなるのでしよう。

○親しい會話……4

「おなかどうすいたわね」

「ほんとに。ぺこ〜よ」

「歸りに、うちへおよりにならない。田舎からおもちが來たの」

「あらうれし。だけど、いゝかしら」

「もちよ。母もあなたをおつれしるつて言つてたの」

「わたしの腹へらしをいゝつけたんでしよう。しかし、もちたいものは親友ね」

「いやよ。いやにもちあげたりして」

「うかうわ。わたしおもち大すきなんですもの。おいしいわね」

「だれだつて好きでしょう」

「子どもにおもちや。先生におもち」

「ホ、ホ、へんなしやれね」

「うま、いゝもりよ」

幼 兒 と 冬

○冬の健康とビタミン

日本人位各種類の衣服をもつている民族はないと云う事や或る人が云つていた。つまりそれは吾國は四季の變化の激しいそして各期間がそれ相當の長期に亙るためそれに應じて着物も多く必要なのであらう。着物は人工的に氣候を作ることであつてこれからの氣溫の低い季節には最も重大な意義を持つのは云うまでもないことである。殊に多くの都會人は戰災を被つたり、食糧への代替物資として衣類は少いと云うより窮乏していると思われる。どうして之の冬を過すか、殊に運動活潑な時代の幼児であつて見ればその悩みも亦大きいと考えられる。寒いと云うことは併しそれが直ちに感胃の多いことを意味したり、各種の疾患に罹りやすいことを豫約するものではないと云うことを效で思ひ出して戴き度い。かゝる條件のもとで冬の季節を健康に過すべくどんな注意を要するかについて考えて見度い。今更云わなくとも風邪は萬病のもとであることは今も昔も變りない。風邪をひいたあととは決して

愛育研究所小兒保健部長
醫學士 藤 壽七郎

内 藤 壽 七 郎

完全な健康體とは云えない。普通風邪をひかないで元氣旺盛のときの健康度を一〇〇と假定すれば風邪のとき或はその後はその何%かは減少して、そこに悪性の病魔のしびり寄る間隙と云うものが生じて来る。體力が一〇〇%であつたときには防ぎ得たであらうと思われる疾病も其免疫力低下のためには防ぎ得ないことになるのである。免疫力低下の原因と思われるものは種々であるが、ビタミンAとビタミンCの消費が風邪のために大變に高まる。そのために人體に於てこれ等のビタミンが不足する。それが抵抗力の減少の一つの原因となるのである。それは更に次の風邪をひき易いしそして一層免疫力の低下を招くことになるのである。冬の健康を保つにはどうしても先ず之等のビタミン類をよく補給しておき、不幸にして風邪をひいたら充分と之等を補うことに留意しなければならぬ。

ビタミンAは、人體にとつて皮膚を丈夫にする働きがあることは御承知の通りで之が缺乏した皮膚は色々細菌が侵入し易くなる。體の上皮組織に角化現象が起り皮膚疥に上腕の

外側下腕の外側などがざら／＼として来る。其他粘膜炎も變化し氣管や氣管枝も犯されるのでビタミンA缺乏の子供は肺炎に侵されることが多く、又侵されたときもひどくなり易いと云われている。米國で實驗された所によると、六—十四才の兒童を二組に分け一方に毎日ハリバ肝油を與え、一方には何も與えないで之の兩群を較べて見た。與えた組は感胃に罹り難く、かかつても軽くすんだと云うことを述べている。

或は又、(一) 毎日鱈肝油一茶匙與えた組、(二) 濃厚ビタミンAを(三) 濃厚鱈肝油錠劑、(四) 鱈肝油錠劑(五) 無施藥の五組に分けたら第五組がやはり一番感胃罹病率が高かつたと云う。更に發育と云うことにとつてもビタミンAは重要な働きをするので、生長期にある動物は其の肝油中に多量のもの保存してゐるのである。

今は全般に結核患者が多いと云われる。之は戰爭後にはつきものと云われてゐるが、第一次世界大戰でも戰後結核は大變に多くなつて來た。吾國は平時から結核が多い。その原因の一つに脂肪の攝取の少ないことも擧げられてゐる。脂肪は其の中にビタミンAを含むことが多いこともよゝことであるし、又ビタミンAをよく吸収させるには、脂肪が必要であり、殊に植物性ビタミンA即ちビタミンAの一つ前階梯であるカロチンがビタミンAとして吸収されるにも之の脂肪がないと充分よく行われないと云うから、各は體の温まると云うことの他にもこの脂肪を多く與えることが必要であらう。

粗食してゐる場合肝臓中のビタミンAは非常に少ない。吾

々戰爭中から粗食を續けてゐる、殊にビタミンAを大量に必要とする幼児では殊更少ないと思わなければならぬ。之の冬は家屋の關係で狭い家に密集生活を餘儀なくせらるるのであるから、結核感染の危險に曝される機會は著しく大である。各幼兒を集團的に扱う場所等では出来るだけツベルクリン等をして陽轉者に充分の保護と監視を怠つてはならぬ。

ビタミンの肝油類は家では忘れたり、嫌つたりする。幼稚園等で家庭から肝油を預かるなり、或は備えつけておいて保母さん方から與えて戴き度いものである。濃厚のものなら一回二—三粒、油状のものなら一茶匙位下痢してゐる時は一時見合せ、下痢がよくつたら又與えて戴き度い。密柑を皮毎食べるとビタミンCとAを相當攝取出來ると云われてゐる。併し幼児では咀嚼の不完全から下痢を起し易いから、うかつなことはさせない方がよい。充分にビタミンを與えて之の冬を元氣で過させ度いものです。

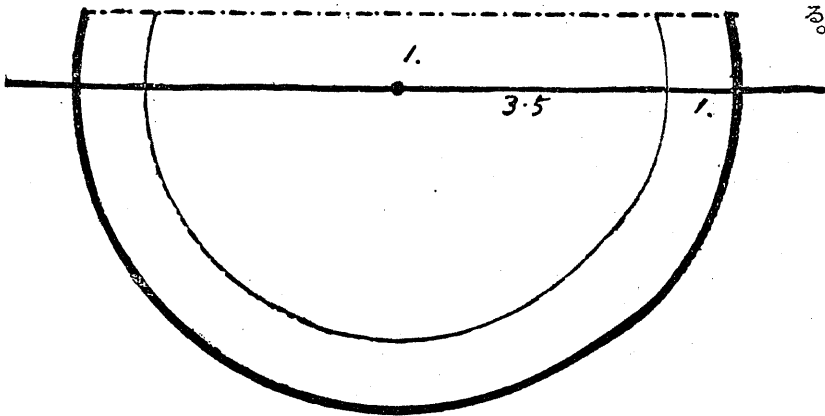
次に冬に缺乏し勝ちなビタミンはDである。御承知の通り冬の日光は弱い、同時に紫外線も弱い。紫外線が子供の體に當ると、皮下脂肪中の「コレステリン」がビタミンDとなるが、之の「コレステリン」から出來たビタミンはビタミンDと云われ作用の強いものです。折角子供を丈夫にしようと思つてカルチウム劑などを與えても、之のビタミンDが不足してきますと體の中に石灰を止めておくことが出來ずに排泄されますので、體全體が石灰不足状態になり、その爲骨が軟かくなつたり、筋肉が柔軟になつたり、神経が軽い刺激にも

すぐ反應され落着きのないいらした子供になる様になつたりして来る。

凍傷なども、秋口から上半身日光浴をしていた國民學校では其年に限つて大變發生が少なかつたと云う。ビタミンDと凍傷豫防には確に或る關係があると思われる。何はともあれ冬の日光の弱い時は殊更に之を上手につかまえて利用することに心掛け、出来るだけ戶外で遊び、少し駆け足でもさせて體を温まらせた上、暖い日、風のない日などは（若し風邪をひいていないことが明瞭な場合は）上半身を五—十分位日光に曝すことが出来れば申分ないが、それが出来ない時は短くすぼんにして下肢丈でも充分日光に直射して欲しいものである。

ビタミンが缺乏すると壞血病になることは知られているが之の發病は大體春先が多い。之は冬季に於てビタミンCの供給が不充分であることを物語っている。發育中にはビタミンCが比較的大量に要求されて、成人一日五〇㊦と云われるに對して乳兒約三〇㊦を要することから見ても發育期に於て重要であることが知られる。ビタミンCの缺乏は免疫性の低下を來たし、風邪や胃腸疾患にかゝり易くなる。又風邪や扁桃腺炎、中耳炎などをした後、いつまでも顔色が蒼白で、お辨當を残す様な子供がいたら、一應ビタミンCの缺乏によるものではないかと考えてしばらくビタミンの多量の供給をして見る必要がある。ビタミンCの食物からの供給で最も簡便なものは都會、殊に關東から以南では密柑の皮がよい。之を一

寸お湯で浸出し二分か三分—その汁を與えるのである。相州密柑の皮一〇〇瓦の中に大體一三〇—一四〇㊦位含まれているから便利である。



保育の實際

シーソー

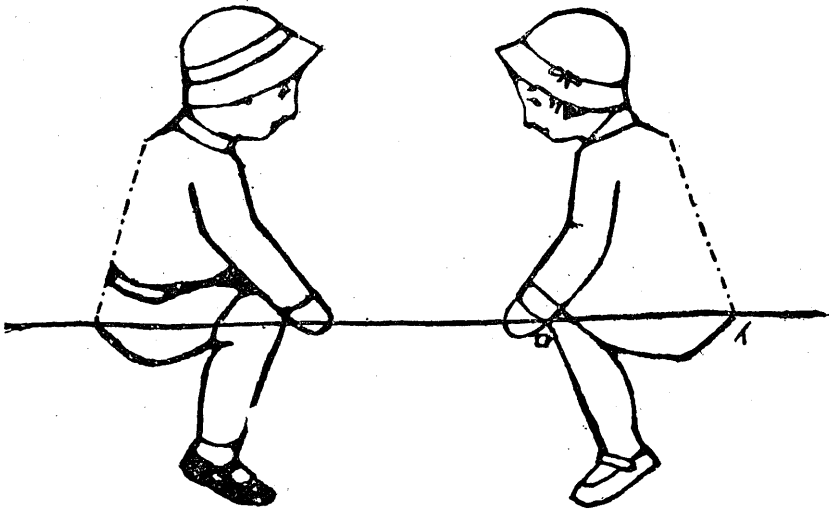
及川ふみ

葉書の縦を二つ折にして、折目から一センチ下つたところを圓心にして、半徑四、五センチの圓と三、五センチの圓と二つ畫きます。一センチの間を赤くぬり、外の圓を切りおとします。

子供の圖の點線の部分は、葉書を二つ折りにした輪のところにあてゝ形をとります。

帽子、洋服などは、それ／＼の色に塗つたり、槿様をつけたりします。二つ折りの向ひ面も前同様に線をかき込み、色や槿様もつけます。二人の子供が出来上りましたらシーソーに子供を乗せます。シーソーの兩端に、子供の背の點線の終りの部分と膝頭イとロの部分にシーソーの上に乗る様に糊ではりつけます。この時、足の方に糊をつけない様にしましよ

う。
シーソーの下の開きを二センチ位にして、指先で動かして遊びます。



子どもとかけっこ

東京女高師
附屬幼稚園

岡崎 脩子

子どもが走るのを見ていますと、實にのびのびとしています。大人のそれは、大抵或る必要があつて走るので、何か窮々とした感じがしますが、子供は何とゆう事なく、たゞ走るるので、其の走り方が、型として整つていないにしろ何にしても、本當に美しいものです。

又これを競争的に取扱つた場合は、どうかといふますと、これも大變に喜びます。運動會がやつとすんだ或る日、久しぶりに、ゆつくりとした氣分で、お遊びの仲間に入つていまして、三四人の男の子が走つてきて、「先生、又運動會しようよ。」としまりに云うのです。「運動會？」とつさに私は先日の運動會の様子を思い出し、又幼稚園だけでした、とゆうのかしら。と思つたのですが、次に、「うん、あの走るのさ」と云われて、子供の云う運動會は、即ちかけっこだつたのだと今更の如く感心し、面白く思つたのでした。

此のように走り比べになると、大抵誰もが好んでします。出發點の所に並んだ子供達の、今まさにとび出さんとする時の顔は、見ていると生氣が溢れていてすばらしいものです。その上うれしき事には、勝敗など一向にかまわず、合圖により皆と一緒に自分の力一杯走る、それで満足する事です。

さてこれから寒い四ヶ月程の間、いくら「子供は風の子」といつても、一たいに非活動的になり易いので、子供をちよこまらせず、喜んで遊べるように、走る事を工夫し取り入れやるとよいと思ひます。

○競争的走の種類と取り扱ひ方

1、普通のかけっこ。

一番やさしいけれど、大變興味をもつてします。走らせる時は、眞直に走る事がむづかしいので、間隔に氣を附け、出きたらコースを歩いてやり、餘り多勢で無い方があぶなくありません。又出發點、決勝點をはつきり分るようにしてやります。特に決勝點は、目標に向つて走る、とゆう事を自覺させる爲に、目立つテープ等張つてあつた方がよいと思ひます。走らせる距離としては、二〇米——三〇米位で、半分で折り返すよりも、眞直に走る方が衝突する危険がありません。

競走となりますと、走る事と共に「競争」とゆう事が取り上げられてきます。始める前に約束して、(イ)出發を正しくする事、(ロ)終りまで一生懸命にすること、(ハ)自分ですんでも、ばらばらになつてしまわずに、腰をおろして見ているとか、お友達を應援する。等、其の時に起つてきた事柄に應じ、時機をのがさず導いてゆけばよいと思ひます。

2、繼走

六歳位より段々と面白さが分つてきますが、大體年長組の子供達の喜ぶものです。繼走になると、早く自分が走りたい

爲、出發の仕方がまち／＼になり易いので、何か危くないものを持たせて、それを出發點のところ受渡しする事を特にはつきりと教えてからにします。繼走にいろ／＼あります。(イ) 向うにあるものを廻つてきます。さわつてくるだけでは、規則を守らぬ子供が出來ますので、はたで見てもはつきりと分るように廻らせる方がよいと思ひます。

(ロ) 川を越す。(イ)と同じ方法ですが、途中に「川」でも作つてやりますと又變つてきます。「川」は餘り太くなく、始めは唯走りながら跳び越す事だけで、落ちては別にかまぬ事とし、跳切つて跳ぶ事をするようになってきたら、落ちぬように注意させます。この時も「川」は、はつきりとかいてやります。

(ロ) 置換競走。椅子等を先方に二個置き、其の上に置いた物を行つて反對の椅子の上に置きかえて歸つてきます、これは椅子等の様に、床より高い所でする方が、地面で置換えるよりも、はつきりと他の人に見えるし、従つて分らなかつた子供もみているうちに分り効果的だと思ひます。これを前後の置換競走にしても出來ます。

(ニ) 次に置いたものを一つ一つ廻つてくる。一番後の標の廻り方と、始めの二つの廻り方の違ひをよく教へて上げましょう。

(ホ) 置いたものをぬうて走る。動き方がむずかしいので、始めは先生がついて、一度歩いてみると、言葉で云うより分り方が早いと思ひます。

此の他色々と組合せたものがあると思ひますが、餘り複雑になつて、分らぬ子供が出來ますと、興味が半減されてしまいますから、やさしく喜んで出來るもの、方がよいようです。この他、繼走になりますと待つ間があるので、騒がしくなつたり、あきたりし易いので、人數を適當にして、組數を多くした方がよろしいです。

躰としては、

きめられた事を正確にする。

持つて走るもの、受渡しや、物の置換え方を丁寧に。

列をみださぬように應援すること。

○遊戯的走の種類と取扱ひ方

今迄は競走的な走についてでしたが、「鬼ごっこ」等は走を遊戯的に取り扱つたものとしてあげる事が出來ます。これらのよい事は何時でもやりたいとゆう人だけで、手軽に出來ることです。「鬼」とゆうものにつかまる、とゆう事と、若しつかまつたら自分が「鬼」とゆうこわい感じのするものにな

らなくてはならない、とゆう事で、非常に夢中になつてしま
す。

(イ) 陣を作つた普通の鬼づつこ。

(ロ) 陣の間に纏走と同じく「川」をつくり落ちぬやうにと
び越す。

(ハ) しやがみ鬼。鬼づつこになると、追われるものは氣が
あせるので、ころび易い。特にこれは急にしやがむ事がある
ので、前にのめつたりし易いので十分氣をつけさせます。

(ニ) ジャンケン鬼。兩方より出て来て、ジャンケンをして
勝つた方が追います。

(ホ) 出ると鬼、出ないと鬼。皆陣に入つているところで、
鬼が「イツサンバラリ出ナイト鬼(出ルト鬼)」と云い、そ
れにより出た人をつかまえたり、間違つた人が鬼になります。
(ヘ) 子トロ子トロ。一列につながら、先頭の人は兩手をひ
ろげて鬼の邪魔をし、鬼は一番うしろの人をつかまえます。
後の方についている人は、振られて轉ぶ事がありますから氣
をつけさせます。

○走る時注意すべき點

(一) 走る時は夢中で他のものには氣がつきませんから、行
う所の地床は十分注意して、石ころとか凹凸の無いところ
でする事が大切です。何でも無い事のようにですが、はずみ
でどんな事が起らないとも限りませんので特に氣をつけた

い事です。

(二) 子供は心身の調子により長い距離でも走りますから子
供にまかせておいてよいのですが、長く走る事を強いたり
はしない事です。又かけっこ、纏走などする場合は、身體
の調子の悪い子供はぬかしてやりましょう。

(三) 走り方は別にかまわれないと思いますが、よくころぶ子
供は後ろにばかりけるが、又足を引きずるようにして走る
ため、もゝの上り方がたりないで、起る事が多いから、足
踏の時歩く時もゝを高くあげさせたりして、段々に練習し
ていくとよいと思います。

(四) 走つてゐる間の呼吸の仕方は鼻でするのがよく、特に
これから寒い時口でするとのどを害しますから鼻でする習
慣をつけましょう。

(五) 室内で行う場合は、室内をきれいにし、ほこりの立た
ぬように行ひ、窓をよくあげ換氣に氣をつけます。

(六) 走つたあとは、のちに寒くならないように十分汗をふ
きとらせます。

ここにあげたものは、普通一般に行われているものです。

此の外、各地方につたわる郷土色豊かな遊びを取り入れたり
工夫なざる事も大變面白いと思ひます。

いづれにせよ子供が喜び、進んで遊ぶ事が出来るように細
心の心ずかひをもつて導きたいと思ひます。

一再建一の保育界

千葉縣保育界だより

市川市私立
日の出學園幼稚園

土屋眞砂子

紅葉たけなわの成田幼稚園にモンペ姿も凛々しく全縣下の保育の友相集い、七十を超えて益々斯道に旺なる山口政子先生中心の保育を參觀し、倉橋先生の御講話をいたゞき、戦時保育の重大性に心固めたのも思えば昭和十八年十一月のころ、あれからぶつくり音絶えて、戦禍は擴大するばかり、先ず大平洋に突出せる銚子市、帝都に隣接の市川、船橋、松戸等の市立幼稚園が閉鎖されましたが、他に殆ど幼児の數に於て、小なりとはいへ相つゞ空襲網に悩まされつゞもひたすらに各々の持場を荷いつゞけてまいりました。二十年六月には縣下保育の中樞師範學校女子部附屬幼稚園不幸爆彈の爲に全潰、七月には千葉市銚子市全焦土の悲運に遭ひ戦時保育の前途も誠に心細き限りとなつてまいりました。然し終戦早々先づ附屬幼稚園四街道町の兵舎に再出發の雄々しい産聲を擧げ薄暗の兵窓に敢闘の田邊周子先生を先達に全縣下の保育も續々と復活の意氣に燃えてまいりました。

去る七月には千葉縣教育會各部の役員招集され戦後の教育實踐事項についての招謝會ありその折幼児教育會に於て會長

女高師附屬幼稚園主事宮川茂先生指導の下に左の要項決議され直ちに實行にうつりました。

一、保育協議會

保母相互の親睦を第一目的として全縣下を四部に分ち隔月に保育についての懇談會を行う。

一、保育者だより

縣下に轉々たる幼稚園保育園の横の連絡を主目的としたもので各月に發行、手製の美しい印刷ながら専ら會員の投稿によつてお互の向上を圖る。

一、總會研究會

一年に一回、總會を開き、研究會講演會等の方法により相互の親睦鍊磨を目的とする。

二十一年度總會狀況

一、昭和二十一年十一月十日（日）
（市川市）に於て開催
財團
法人日本學園幼稚科

一、保育參觀、午前九時より十一時迄
協議會午前十一時より十二時迄

懇談會午後零時より一時迄
講演會橋先生午後一時より三時迄

前日まで降り續いた晩秋の冷雨もからりと晴れて申分ない幼稚園日和、早朝より三々五々交通難を征服して集い來る友と友との顔、久方ぶりに相見る歡び、新保育への光を求める緊張裡に戦後第一回總會の扉を開きました。

母と語る

(1)

倉橋惣三

○ことしはまだ、可愛い子ども達のために、充分いゝお正月を興えることが、むつかしいかも知れない。がそれは、餅の小さいことです。菓子の甘くないことです。玩具の少ないことです。つまり物の不自由なこと、心で補えば補えることである。また、是非、心で補わなければならぬことである。あなたの心で。

○氣の毒なのは、なんにも知らず敗戦にあつた子ども達である。がしかし、家庭があり、親があることに變りはない。その家庭が焼かれ、その親を失つた子らに至つては、氣の毒などの言葉ではつくせないほど、同情の限りであり、能う限りの愛護をつくさなければならぬが、それを思いやるにつけても、あなたの家庭をゐなす自身を、あなたのお子さんの幸福のために大切にしなければなりません。家庭と親とを、眞に子どもの幸福のためのものであらしめることは、必ずしも物において充ち足らせるばかりではない。ゆうまでもなく、心において充ち足らせることである。それは物において普通の世でもそうである。が、物に缺くる日、殊に心が大切になる。

○幼い子どもは、物さえ充分なら満足するもの、物のよろこびしか知らないものと、假りにも思つたら大間違ひである。

あの純な、こまやかな人間性は、或は、おとななんかよりも一層純に、一層こまやかに、心の幸福を感じるものである。備つてゐる部屋も好きだ。しかし、それが自分のための心を籠められてゐる時、どんなに嬉しいであろう。貰うものはなんでも喜ぶとゆうが、それが自分のためのやさしい心と、その心のおふれる笑顔とを以て與えられる時、どんなに嬉しいであろう。子ども達を人間として侮つてはならぬ。樂しませ、喜ばせるだけでなく、眞に心を嬉しがらせなければいけない。眞に心を嬉しくさせるのは心のほかにない。

○愛護とゆうが、子どもの心を嬉しくすることなしに、どんな愛護も出發しない。家庭にあつて特にそうだ。幼い子に對して特にそうだ。そうして、それが、家庭にあつて、親において、最もよく、最も自然に出来ることである。教育とゆうことも亦、この基礎なしにはあり得まい。殊に、家庭教育は、それを特色とし、本質とする教育である。教育者としての親の工夫も力も。

○それにしても、理屈は兎も角、眞に心を嬉しくされた時の、子どものあの嬉しさは、なんと、親にとつて嬉しいことであろう。その嬉しさがまた、子どもにとつても、どんなに嬉しいことであろう。こうした嬉しさの循かんに充ちてこそ、お子さんの家庭、あなたの家庭である。

新春初めの言葉として、先づこれをお母さん方に贈る。

個性の心理と指導 (一)

東京女子高等師範學校教授

牛 島 義 友

一、個性とは

子供の個性を尊重し、個性に即した教育をなすことは民主主義教育の中心問題である。このために個性の理解、個性の發見に參考になる心理學的知識を數回にわたつて述べたいと思ふ。

このために先づ個性とは何か、又性格、人格、素質等關係のある一聯の言葉があろうがこれ等の意味を明らかにしておきたいと思ふ。

氣質 (Temperament) 親の性格は子供に遺傳するとか、持つて生れた性格はどうすることも出来ない等と言う時の性格の語は正しくは氣質のことである。即ち氣質といふ言葉は遺傳的な性質、生理的身體的なものに基礎を持つた性質を指すものであつて、醫者達が取上げるのは大體この氣質である。人格 (Personality) しかし性格は凡て遺傳によつて定まら

てゐるのでなく、生れてから後の教育、環境、修養等によつても影響され、構成されてくる。この環境的な面を特に強調した言葉に人格という語がある。この原語の意味を追究すると、性格の意味がはつきりしてゐるので少しせんさくしてみたい。

人格といふと直ぐ道德的性格を考えさせるが、英語の *Personality* の語は個人的、性格的という意味に使われている。この語はラテン語の *Personna* から來る。 *Personna* とは、昔芝居をする時俳優達は面をつけて演じたが、この俳優を呼び出すメガホンを意味していた、やがてこの面のことを意味するやうになつたという。面には登場人物に應じて士や老婆や美女や悪人等の様々の面があるが同じ俳優でも、この面をつける丈夫と異つた性格を呈してゐる。人格の本來の意味はこの假面であるというとなつても如何にも逆説めいて來るが、この假面説にも充分理由が考えられる。

赤ちやんは面を持たず、いつも素顔のまま、天真らんまんとしてゐる。家庭の内と外との區別もなく、人前でも平氣でおしつこをする。この自然のままの幼児も成長するにつれて、面をつけることを覚えてくる。はにかみや内辨慶になつたりするのは第一の面をつけるようになったためである。即ちよそに行く時によそ行の面をつけることを覚えるようになったのである。よそではお行儀よくしなければならぬことを知るようになつて、子供によそ行の態度と、家の中の態度が區別されてくる。學校に行くようになると、更に「よい子」としての面をかぶるようになつて教えられる。よい生徒と勉強し、學生らしく振舞うことを覚えてくる。更に卒業して社會に出ると、面の敷は急にふえてくる。例えば教師は教壇に立てば眞面目くさつた教師の面をつけるが、家庭ではこの面を脱いでゐる。又家庭の中でも自分の親に對する時には子としての態度で、へりくだつた姿を示すが、自分の子に對しては威嚴のある父親として臨む。このように人が成長することは、色々な面を使い分けするようになることであると言ふことも出来る。人格者とはこの面を正しく使い分けるとの出来る人であるといつてもよい。自分の妻に對しても、他の婦人に對しても同じ態度で臨むようでは人格者とは言へない。こういう風に考えると、人格の本質は面であるといふのも一應の理由があることが了解されよう。

日本語の面の語にも單にマスクの他に、それをかぶる人を意味し、人々のことを面々といつたり、人に會ふことを面

會、面談などという。更にこの面は人格の中心を意味し、體面、面目、面子等はどうでもよい假面の問題ではなく、人としての中心問題となる。このように面は人格にとつて重大な要素であり、對手や狀況に應じて如何なる面を使い分けるべきかを絶えず工面していなければならず、若し使い誤ると面喰うし、従つてこんなことに心を勞することは面倒なことになつてくる。

この面はその人の社會的役割に依つて夫々相違して來るものであるから、全く環境的なものであり、生來の性質の異つた人でも同じ職業につけば共通の面をかぶるようになり、先生タイプ、警官タイプ、職人かたぎ等共通の性質が現れてくる。

ついにかたぎといふ日本語は染物の場合の形をつける型木から來たもので、この型がおかれると、皆共通の模様になつてしまふ。

以上のペリソナの語は性格の中の環境的な面を強調したものであるが、元來性格にはかかる面が重要なものであり、従つて躰や教育が大切となる。

性格 (Character) の語も教育的性格を強調してゐる語である。これはギリシヤ語の語源を持つてゐる。カラリテレスは元來、自分の領地を示す杭の意味であつたが、後にその杭に書かれたもの、何某の所有地といふ文字を意味し、又刻印徽標の意味であつたといふ。即ち刻み付けられたものであり、従つて變らない、不變のものを意味する。ペリソナは社

會的役割に應じて常に變るものであつたが、これはその人に刻印された不變の性質を指す。同時にこれは生れながらに具えていた性質をさすのでなく、後から刻み付けられたものを指す。従つて子供はまだかかる刻印がつけられていないので無性格である。教育や人生體驗によつて自分の中に刻みこまれるものである。

又カラリテルとゆう時には單なる性質、他人と異つた特質とゆうだけでなく、道德的な意味をもつてゐる。道德的に望ましい性質がカラリテルである。性格陶冶とゆうのは、單にその人の個人的特徴を伸すとゆうことではなく、望ましい性格に教養して行くことである。教會でカラリテルを頂くとゆうのは、洗禮や按手の場合聖人の名を付けてもらい、その靈魂に聖人を刻みつけることである。

従つて性格を持つた人とは、立派な品性をそなえた人、強い信仰を持つた人を意味する。かかる性格は人生に對する眞面目な態度であるので、性格者の顔はどちらかかとうと憂うつな影をやどしてあり、悲劇的な人となる。即ち高い道德や信念にもとずいて生活しようとするし、日常の事が凡て憂うべきこととなる。こんなことで將來の日本はどうなるであろうかと世を憂い、又自分自身を顧みても足りない點ばかり反省されて絶えず憂うつになる。樂天主義、亭樂主義等は性格ある人の姿ではない。絶えず笑つてゐるものは子供が狂人であつて、性格者は寧ろ憂い顔をしてゐる。偉れた性格俳優といへば皆悲劇役者である。元來悲劇と喜劇とは同格のものでは

ない。悲劇こそ正統の藝術であり、喜劇は茶番狂言に過ぎないものである。

このようにカラリテルの語は教育的、道德的、宗教的な意味を持つた語であつて、性格と譯するよりも、品性とか人格と譯した方が適當でないかと思つてゐる。

尙日本語の性格の語は非常によい語である。性は天性であり、自然的性質、遺傳的素質の意味であるが、格の語は風格とか格式の場合の如く、社會的な性質、ベルソナの意味の字である。性格に於けるこの二つの面を一つの言葉で現してゐるので、この語は非常によい言葉といえよう。

以上の氣質と人格、性格とは意味が大いに異り、而もこれが性格の重要な兩面である。性格を單に氣質的な遺傳的な面ばかりから考へるのは誤つてゐる、ベルソナの、カラリテル的な面からも同時に考へて行く必要がある。

類型と個性。尙ついでに類型と個性について考へておこう科學的に自然科學的に性格を考へる時には類型として考へて行くのである。個性は人によつて夫々相違するので、個性の數は人間の數だけある譯である。かかる一人一人の個性を研究することはとうてい不可能であり、又餘り役に立たないと考へる。學問的に考へる時にはかかる個性ではなく、似た様な人々を一緒にし、一つのタイプとして研究して行くのである。タイプとなればその數はずつと減じて、數個のタイプ、極端には内向性と外向性の様に二つのタイプとなつてしまふ。一々の人をどのタイプに屬するか、を研究したり、その

タイプにはどんな性質があり、同じタイプの人なら大體こんな行動に出るだろうと豫測したりするのである。醫者が病人を診断して病名をつけるのも、この類型的處理をしているのである。病名がきまればその治療法も定まり、又將來の経過についても豫測が出来る。同様に性格研究に就ても、その人の類型を明らかにすると、その指導や將來の生活を知ることが出来るのである。

從來個性教育という場合に、専ら知的方面の個性を考える傾向があつた。優秀兒童のための英才教育とか、特殊な才能を持つた子供の教育、或は低能兒のための特殊教育を考えたり、自分の子供の智能指數を氣にしたりする。併し智能のみならず、性質をも正しく理解し、その教育指導を考へることが大切である。頭はよいが性格が弱いために落伍者になつたり犯罪者となるものも多い。又好ましくない性質を放置してはいけない。性格教育とは前述の如く、單にその子供の特質を見たり伸すだけではなく、常に好ましい性格に育成することを考へるものである。これは凡ての人を理想的な標準性格に育成するといふ意味ではない。内向的な子供も外向的な子供も凡て中庸のある子供にしてしまふのではない。極端な内向や外向は極力矯正したり、緩和する必要があるが、普通の内向的な者はその内向性の持つてゐる、反省的、自己追究的なよい面は一層伸してやるが、非社會的、孤立的になる傾向は出来るだけ防止する様に指導することが必要なの

ある。外向的な子供はその社會性、指導性等を培つてやるが、流行性や輕薄に流れないように注意する必要がある。かかる智能以外の性格の面で、子供を正しく理解し、それに應じた教育をなすことが望ましく。

○親しい會話……5

「なに読んでいらつしやるの」

「……………」

「親音經譯話。えらいのね」

「まあいやな。うちのおばあさんがお讀みつて呉れたの」

「おばあさまが……………」

「わたし此頃少し疲れてるのか、なんだかいら／＼して困るの。亂暴な男の子や、ぐづ／＼してる女の子を見ると、ついいら／＼して来るの。自分でも悪いと氣がついてるんですけど」

「だれでも、そんなことあるわよ」

「そうかしら。それでね、その話を夕御飯の時うちのみんなに言つたら、中座へ行つてる弟が、やい、いら／＼先生なんてゆうんでしよう。わたし、またすぐいら／＼しちゃつたの。そうして、みんなに笑われたの。そのあくる朝よ。わたしの机の上に、この本が置いてあるじゃないの。だれか知ら／＼思つたら、おばあさまなの」

「おばあさま、なんとかおつしやつて」

「わたしだつて時々、いら／＼することがあるから、忙しいお前は無理もないつて……………」

附 録

幼稚園は文字を教えるところではない。しかし、姓名くらはいを書くし、唱歌その他をボードに書くことは、いくらかもある。それには、新しくきめられたかなづかいによる必要がある。それは、学校の教科書もそうなるし、子どもの繪本も、おとなの新聞雑誌もそうなる。家庭や幼稚園で、舊かなづかいを書いては、子どもをこんらんさせる。そのための参考として下さい。例は幼稚園などでも使うことがあるかもしれない普通日常のやさしい言葉だけにした。(向本誌も全部新しいかなづかいにした。諸先生の原稿も出来るだけ直させていた。だが完全でないかもしれない。しかし、子どもに示すものは必ず正しく一定したい。)

(編輯部)

現代かなづかい

(一)

- 一、このかなづかいは、大體現代語音にもとづいて、現代語をかなで書きあらわす場合の準則を示したものである。
- 一、このかなづかいは主として現代文のうち、口語體のものに適用する。
- 一、原文のかなづかいによる必要のあるもの、またはこれ

を變更しがたいものは除く。

表記に関する通則

- 第一 ア列長音は、ア列のかなに^あをつけて書く。
 - 第二 イ列長音は、イ列のかなに^いをつけて書く。
 - 第三 ウ列長音は、ウ列のかなに^うをつけて書く。
 - 第四 エ列長音は、エ列のかなに^えをつけて書く。
 - 第五 オ列長音は、オ列のかなに^うをつけて書くことを本則とする。
 - 第六 ア列拗音の長音は、ア列拗音のかなに^あをつけて書く。
 - 第七 ウ列拗音の長音は、ウ列拗音のかなに^うをつけて書く。
 - 第八 オ列拗音の長音は、オ列拗音のかなに^うをつけて書くことを本則とする。
 - 第九 拗音をあらわすには、や、ゆ、よを用い、なるべく右下に小さく書く。
 - 第十 促音をあらわすには、つを用い、なるべく右下に小さく書く。
- 第一 お、を、は、い、え、おと書く。たゞし助詞のを除く。
- 例 一、^おを^いと書くもの。

いど(井戸) いのしし(猪) くわい(慈姑) あり(藍)
まいる(参る) いる(居る)
しんるい(親類)

二、ををえと書くもの

こえ(聲) つえ(杖) すえ(末)
うえる(植ゑる) すえる(掘ゑる)

ちえ(智慧)

こうえん(公園) いちえん(一圓)

三、ををとおと書くもの

おけ(桶) おか(岡) うお(魚) とお(十) おどる(踊る)
おしえる(教へる) おしり(惜しり) おかし(を)

かし(あおい) 青い)

第二 ぐわ、ぐわはか、がと書く。

例

一、くわをかと書くもの
かがく(化学) か(い) (貨幣) かふん(花粉)

かし(菓子) かじ(火事) かまく(課目)

二、ぐわをがと書くもの

がいこく(外国)
いちがつ(一月)
がんやく(丸薬)

第三 ぢ、づはじ、ずと書く。

例

一、ぢをじと書くもの

あじ(味) ふじ(藤) わらじ(草鞋)
ねじる(捻ぢる) はじる(恥ぢる) よじる(攀ぢる)

二、づをずと書くもの

うずら(鶉) うず(渦) みず(水)

ゆずる(譲る) うずめる(埋める) さずける(投げる)

めずらしい(珍らしい) はずかしい(恥かしい)

しずかに(静かに) まず(先づ)

だいず(大豆) ずじよう(頭上) ずが(圖書)

(1) たゞし、二語の連合によつて生じたぢ、づは、ぢ、づと書く。

例

はなぢ(鼻血) ひぢりめん(緋縮緬)

ちかぢか(近々) みそづけ(味噌漬)

みかづき(三日月) ひきづな(引綱)

つねづね(常々) いれぢえ(入智慧)

ちやのみぢやわん(茶飲茶碗)

(2) 同音の連呼によつて生じたぢ、づは、ぢ、づと書く。

例

ちぢみ(縮み) ちぢむ(縮む)

つづみ(鼓) つづら(葛籠)

つづく(續く) つづる(綴る)

第四 ワに發音されるはは、わと書く。たゞし助詞のはは、

はと書くことを本則とする。

例

かわら (瓦) かわ (河) にわ (庭)
 あらわす (著す) まわる (廻る) こわれる (毀れる)
 あらわない (洗はない) あつかわない (扱はない)
 うたわない (歌はない) かわいらしい (かはいらしい)
 くわしい (詳しい) けわしい (険しい) びわ (枇杷)

例

うぐいす (鶯) たい (鯛) はい (灰) いわいわけ (言譯)
 ついやす (費す) たいらげる (平げる) ならいます (習ひます) おもいます (思ひます) したがいます (従ひます)
 ちいさい (小さい) こいしい (戀しい) づいに (遂に)

例

あらう (洗ふ) まう (舞ふ) あう (合ふ) かう (買ふ)
 うたう (歌ふ) しなう (撓ふ) ゆう (言ふ) くらう (食ふ)
 すう (吸ふ) ぬう (縫ふ) ゆう (結ぶ) くるう (狂ふ)
 あらそう (争ふ) うけあう (請負ふ) おもう (思ふ) あやう (危う)

例

第七 オに發音されるふは、おと書く。
 あおい (葵)

あおく (仰ぐ) あおる (煽る) たおす (倒す)

第八 エに發音されるへはえと書く。ただし助詞のへは、へと書くことを本則とする。

例

かえる (蛙) いえ (家) まえ (前) かんがえ (考) かえる (歸る) さえする (轉る) すくえ (救へ) ひろえ (拾へ) さえ (助詞さへ)

例

第九 オに發音されるほは、おと書く。

例

いきおい (勢) かお (顔) しお (鹽) におろ (包)
 おおかみ (狼) おおやけ (公) こおり (氷) こさち (蠶蟬) ほおすき (酸漿) ほお (頬) もよおし (催し) なおす (直す) しおおせる (爲遂せる) とどおる (滯る) とおる (通る) おおろ (多) おおきい (大きい) とおろ (送) なま (猶)

第十 ヌの長音は、ゆうと書く。

一、いうをゆうと書くもの

ゆうびん (郵便) りゆう (理由) しょゆう (所有) ゆうぎ (遊戯)

二、いふをゆうと書くもの

第十一 エ列長音は、エ列のかなにえをつけて書く。

例

ねえさん(姉さん) ええ(應答の語)

第十二 オの長音は、おうと書く。

例

一、あうをおうと書くもの。

おうか(櫻花) ちゆうおう(中央) おうむ(鴨鵝)

おうう(奥羽)

二、わうをおうと書くもの

よおう(弱う)

おうらい(往來) こくおう(國王) おうじ(皇子) ちう

こん(黄金)

三、あふをおうと書くもの

おうぎ(扇) おうみ(近江)

四、はうをおうと書くもの

あおう(逢はう) かおう(買はう) まおう(舞はう) こおう(強う)

第十三 ヨおよびゴの長音は、こう、ごうと書く。

例

一、かうをこうと書くもの

こうじ(麴) こうがい(井) こうへ(神戸)

さこう(咲かう) きこう(聞かう)

こうばし(かうばし)

あこう(赤う) ちこう(近う) こう(斯う)

二、くわうをこうと書くもの

こうせん(光線) こうしよく(景色) こうぞく(皇族)

三、かぶをこうと書くもの

こうおつ(甲乙) たいこう(太閤)

四、こぶをこうと書くもの

こう(劫)

五、がうをこうと書くもの

いそごう(急がう) なごう(長う) ばんごう(番號) さいごう(西郷)

六、ぐわうをこうと書くもの

ごうごう(轟々)

七、がふをこうと書くもの

いちごう(一合)

八、こぶをこうと書くもの

えいごう(永劫)

第十四 ソおよびゾの長音は、そう、ぞうと書く。

一、さうをそうと書くもの

はなそう(話さう) かえそう(返さう) ちらそう(散らさう) あそそう(浅う) くそそう(臭う)

そう(然う)

二、さぶをそうと書くもの

そうじ(掃除) そうちよう(早朝) たいそう(體操) そうもく(草木)

三、さぶをぞうと書くもの

ぞうろう(候々)

四、さうをぞうと書くもの

せいぞう(製造) ぞう(象) しょうぞう(肖像)

會 か ら

○先づ新年の賀を申し上げる。

おたがひ、志を

開うし、幼児教

育のために盡すもの、常に勵しおひ助けあつて、歳と共に益々力を協せましよう。殊に復興三年目、多難に緊張を加えられ、進展に希望を興えられ、われともしらの力の盛り上りを感じずるではありませんか。

○ことは、わが國教育の大刷新の歳です。

學齡以上の義務教育年限も延長され、その幅も狭げられると共に、その普通教育の上につゞく教育施設も面目を新たに向上されようとしています。全く劃期の大革新です。この時に當つて、幼児教育も亦、學齡前の教育の充實のために、大いに展開されなければなりません。その方途、企劃については、本誌上にもそれ／＼の熱心な意見が發表され、また、これからも一層強く、又一層綿密に發表せられるでしょう。この點についても誌友皆さんの深い關心に背いてはならぬと思つてゐます。全國幼児教育界の協力進達の必要は、正に昭和二十二年の最要急事であります。

○本誌は復刊後、第四十五卷の三號を了り、

新たに第四十六卷として、號を新たにします。復刊勿々、差し足らぬ點も多いに拘わらず、幼児教育者諸君の多大の御歓迎を得、愛讀と支援をいたゞいてゐること、まことに感謝にたえないところであります。新巻と共に、内容を、保育實踐、保育理論、保育運動の各面にいよ／＼充實させ、誌友諸君の好意ある御期待にむくいたいと念じています。

○それにしても、階級御苦勞の多い上に、まさに寒氣も迫ることでもあります。御自愛下さつて、御健康に御活動下さい。皆さんの御健康は、皆さんの大切な幼児のためであります。

「幼児の教育」編輯

- 編輯主幹 倉 橋 惣 三
 編輯委員 牛 島 義 友
 及 川 ふ み
 齋 藤 文 雄
 多 田 敏 雄
 山 下 俊 郎
 編輯部員 丸 山 長 治
 (日本幼稚園協會)
 (五十番順)

幼児の教育 第四十六卷 第一號

定價 金三圓五拾錢也(送料共)

料 費 詳 細	
半 年	金拾五圓(送料共)
一 年	金參拾圓(送料共)

昭和二十一年三月二十五日印刷約本
 昭和二十一年三月三十日發行

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

編輯兼 發行所 倉 橋 惣 三

印刷者 發 行 者 倉 橋 惣 三

東京都神田區神保町三ノ二九

印刷所 明和印刷株式會社

東京都小石川區大塚町三十五

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

東京都神田區神保町三ノ二九

發賣所 株式會社 フレーベル館

電話九段(33)二三〇・二三二

振替東京一九六四〇番
 ○本誌購讀について注文申込その他は
 凡べて發賣所フレイベル館宛に願ひます

顧問 倉橋惣三先生

キング・オブ・キッズ

定價一冊金拾圓 送料金三十錢

繪雜誌界の霸王

新しい保育用として全國の御家庭に
是非一冊を備へられんことを

各地代理店

發行所

東京都神田區神保町三丁目廿九番地

株式會社

フレイベル館

振替口座東京一九六四〇番

北海道代理店 柏幼舎
北海道帶廣市東一條南九丁目一〇

東北代理店 淺見商事
高崎市田町三丁目十六番地

東北代理店 金井榮一
群馬縣伊勢崎市本町

東部代理店 岡田商店
東京都葛飾區金町

北陸代理店 柴田喜一
福井市佐久良仲町

中國代理店 幼兒の友社
松山市大手町二丁目三十六番地

中國代理店 明生社
岡山市小橋町百七十番地

關西代理店 安田商社
岐阜市湊町十八番地

關東代理店 新友社
東京都杉並區西荻窪三ノ九五